

## 富士海岸と遠州海岸における海浜植生と海浜地形

名城大学環境創造学科 正会員 伊藤政博  
名城大学院土木工学専攻 学生員〇立松英俊

- はじめに 自然の海浜あるいは海岸堤防前面の砂浜に自生している海浜植生は、砂浜上を吹く風による飛砂の防止および自然景観の維持に役立つなど自然環境を醸し出している。このように自然な砂浜に適切な方法で植栽することによって、自然景観だけでなく、安らぎと潤いのある海岸として蘇らせることが可能である。このような立場での研究が伊藤ら（2000）によって行われている。これは、平成 11 年に改正された海岸法に追加された「環境」と「利用」の Keyword に応えられる。海浜植物が生育するための条件としては、植生の汀線からの距離、海浜砂の粒径、地下水位の高さ、植生の海水面からの地盤高、海浜上の風速、海浜の勾配などさまざまな要因が考えられる。本研究は、海浜植生を用いて海浜の環境整備を行うに先立って、まず、砂浜に生育している海浜の植生種の実態と、植生種の生育が汀線から植生先端までの距離、底質の粒径との関係について検討を加える。
- 研究対象地域 本研究では、富士および遠州海岸を対象にする。富士海岸は、図-1 (a) に示すように駿河湾奥に位置し富士川河口から狩野川河口までの約 20km の区間である。また、遠州海岸は、図-1 (b) に示すように、天竜川左岸側の福田海岸から右岸側の中田島海岸までの約 16km の区間である。
- 調査方法 海浜植生は、平成 9, 10 および 11 年の 9 月に現地調査を行った。植生の採取は富士海岸では測点 No.0~90、遠州海岸は測点 No.101~171 で植生を採取し、生育地点の汀線からの距離と海水面からの地盤高の測量および底質を採取した。

4. 研究結果 植生の種別を分類した結果が図-2 に示してある。この図は、横軸に植生の種類、縦軸に植生が生育している地点の測点 No. の数がとってあり、富士海岸と遠州海岸に生育する植生種が表してある。この図から、遠州海岸に比べ富士海岸は植生の種類が豊富であることがわかる。富士海岸で植生種が生育している測点の数の多い順にあげると、ハマヒルガオ、メヒシバ、ススキ、遠州海岸ではハマヒルガオ、メヒシバ、ケカモノハシの順である。両海岸に共通して生育している植物は、ハマヒルガオ、メヒシバである。図-3 と 4 に、富士海岸と遠州海岸の海浜でハマヒルガオとメヒシバが生育している砂浜の環境が中央粒径と地盤高および中央粒径と汀線からの距離でまとめてある。これらの図によると、両海岸で特に底質粒径が大きく違っている。さらに詳細に調べるために、表-1 に両海岸で植生が生育している条件がまとめてある。この表から、ハマヒルガオとメヒシバが生育している海側先端の地盤高と汀線からの距離が違っていることが分かる。すなわち、遠州海岸では、ハマヒルガオとメヒシバの地盤高と汀線からの距離は大差ない。しかし、富士海岸では、ハマヒルガオとメヒシバの地盤高と汀線からの距離が違っている。

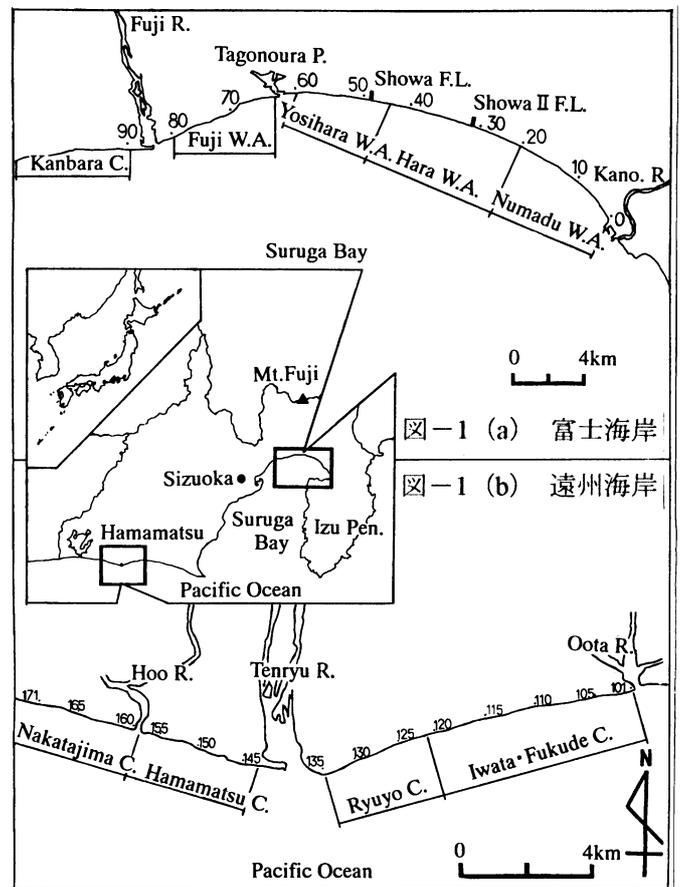


図-1 研究対象地域

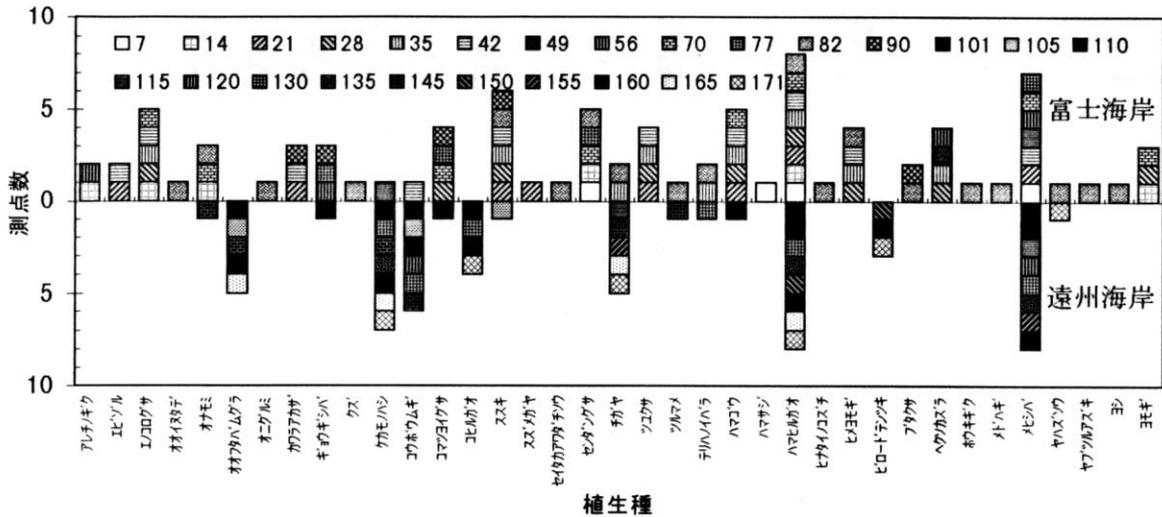
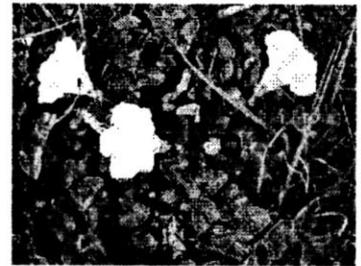
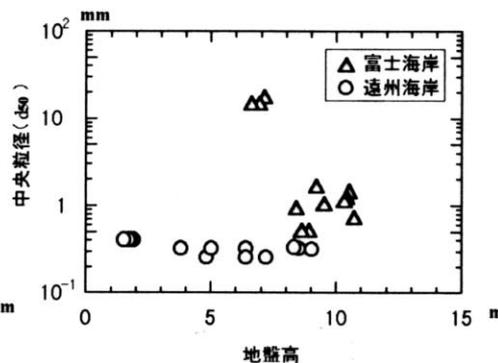
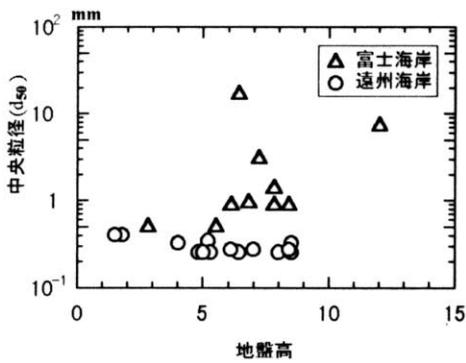
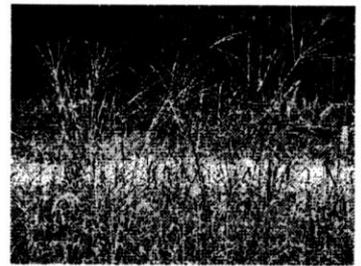
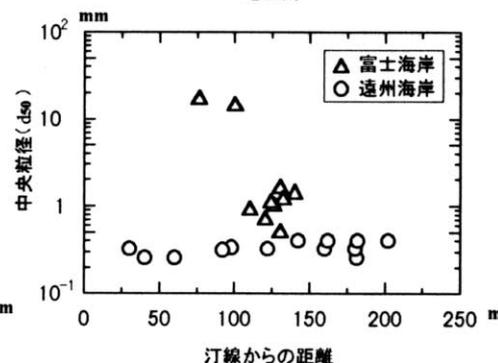
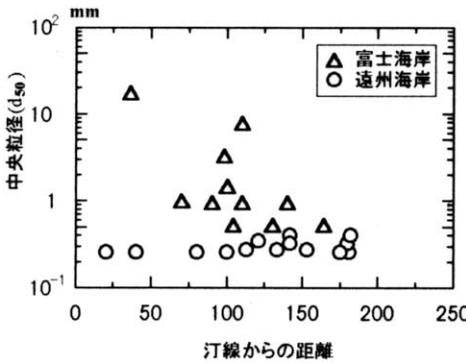


図-2 富士海岸と遠州海岸の植生種の比較



ハマヒルガオ



メヒシバ

図-3 ハマヒルガオ

図-4 メヒシバ

表-1 植生が生育できる環境

	中央粒径 (d <sub>50</sub> ) mm		地盤高 m		汀線からの距離 m	
	富士海岸	遠州海岸	富士海岸	遠州海岸	富士海岸	遠州海岸
ハマヒルガオ	0.5~16.9	0.26~0.41	2.8~12	1.5~8.5	36~164	20~182
メヒシバ	0.5~16.9	0.26~0.41	6.6~10.7	1.5~9	76~140	30~202

5. まとめ 1) 富士海岸は、遠州海岸に比べ植生種の数が多い。
- 2) 両海岸に共通して生育している植生種としては、ハマヒルガオとメヒシバである。
- 3) 富士海岸と遠州海岸の海浜に生育しているハマヒルガオとメヒシバは、両海岸で底質粒径が大きく違っているが、地盤高と汀線からの距離が大体同じである。

参考文献

伊藤政博, 岩川芳久 (2000) : 富士海岸および遠州海岸における海浜植生と海浜地形について, 環境情報科学論文集, No.14, 301~306.